



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数
配布

令和6年(2024)10月9日号

校長 狩野 洋光

兵庫県小学校社会科教育研究大会 10/4

雨が降る中、保護者の方には、大会の受付だけでなく、児童の安全下校にご協力いただきました。地域の方には、駐車場(運動場)の誘導をしていただきました。給食の先生には、給食を普段よりも早めに用意していただきました。多くの人のご協力により、大会を実施することができました。ありがとうございます。大会翌日の土曜日には、スポーツクラブ21良元の皆さん、サッカークラブの皆さんが、運動場の整地をしてくださいました。最後までお世話なるばかりで恐縮しております。本当にありがとうございました。

さて、大会では、多くの参観者に囲まれる中、5年生がいつも通り、自然体で授業にのぞんでいました。「先生を助けてあげるんだ」と話す子どもがいたことを、下校の付き添いをしてくださった保護者の方からお聞きしました。大会に向けて多くの時間を費やしてきた先生方の熱意が、子どもたちに伝わっていたのだと思います。

参観していただいた先生方からは、良元小の子どもたちのことをたくさんほめていただきました。とくに5年生は、「予想を仮説に高める」「仮説を検証する」という学習課題に真剣に取り組む姿をほめていただきました。大会までの授業でも、自分の仮説が選ばれなかったことで、涙を流す子どもの姿が見られました。悔し涙が流れてしまうほど考えたのだろうなと思いました。



「ほにやららやけ」～ 拾った言葉をみんなの学びに

西宮市の発表では、「なぜ、日本の漁獲量は1980年代後半から40年間で三分の一まで減少したのだろう」という「なぜ」の仮説を考えていました。ある子どもが「忘れたんだけど、ほにやららやけがね・・・」と話し出しました。その言葉を拾った先生が素晴らしかったです。子どもたちは、すぐに教科書や資料集を開いて調べはじめました。ある子が「いそやけだ!」と声をあげました。続いて見つけた子どもが「磯焼け」とつぶやいていました。発言を拾われた子はうれしかったと思います。みんなで調べて見つけた言葉「磯焼け」は、一緒に調べた記憶とともに子どもたちの心に豊かに残るのではないかと思います。

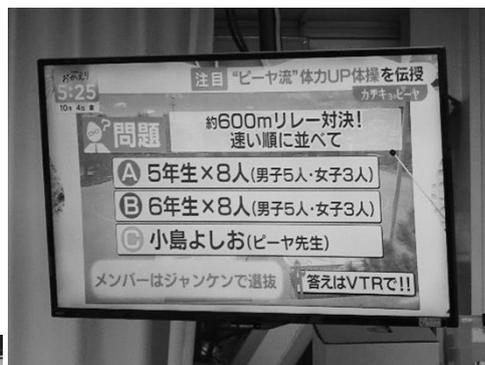
授業づくりには大変な労力と時間が必要です。子どもの「わかった」「できた」だけでなく、「なぜだろう」と考え続ける姿、学び続ける姿を思い浮かべながら、先生方は、今日も授業の準備をしています。



リレー対決! 小学生 VS ピーヤ先生

県大会が終わった 10/4 の夕方、先日収録を行った映像が放送されていました。後片付けを終えた先生方が、職員室でテレビにくぎ付けです。

5年生と6年生がテレビに映るのを、良元小学校の先生方も楽しみにしていました。



ひと仕事を終えて、職員室に集まった先生方で、同じテレビを見る図です。ウェルビーイングですねえ～。

次は、運動会に向けて力を合わせていきます。